

民研

第30回
全国教育研究
交流集会

つながいと 共同の中で 育つ未来

民研30年を力に

1日目

ラウンドテーブル 10:00~12:00

- ◆ 「性暴力からの回復の道をさぐる
——ジェンダー・セクシュアリティと障害の交差する地点から」
- ◆ 高校統廃合を考える

全体会 13:00~17:00

基調報告 実行委員長 中村雅子

記念講演 沖縄から次の戦争を止める
三上智恵さん(映像作家・ジャーナリスト)

シンポジウム コロナ禍での子どもの困難と
新しい公教育のあり方を考える

- ① 今、高校現場で起こっていること
本多由紀子さん (北海道高校教員)
- ② 惨事便乗型教育「改革」と公教育のゆくえ
児美川孝一郎さん(法政大学、民研副代表運営委員)
- ③ 「子どもへの無関心」の戦後政治史に抗して
浅井春夫さん (立教大学名誉教授)

民研設立記念のつどい 18:00~19:30

2日目

分科会 10:00~16:00

1. コロナ禍と子ども・若者
2. 中教審「令和の日本型学校教育」の検討
3. GIGAスクールと公教育の近未来
4. 学校、地域を私たちの手に
5. 教師の働き方のゆくえ
6. ダイバーシティを問う

2021年

12月25日 土

26日 日

1日目は、全国教育文化会館と
オンラインの併用、2日目は
オンラインのみで検討中
HPで確認を

申し込み

全体会・分科会申し込みは、
メールで

sanka@min-ken.org

へお送りください。

申し込み締切は12月17日。
参加は無料です。

主催

民主教育研究所

東京都千代田区二番町 12-1

全国教育文化会館 5F

Tel 03-3261-1931

Fax 03-3261-1933

office@min-ken.org



開催形態について

全体会と民研設立記念のつどいはハイブリッドで、ラウンドテーブルと分科会はオンライン開催を予定しています。全体会会場参加はワクチン接種された方で近隣の方でのみとさせていただきます、コロナ対策から50名以内とさせていただきます。尚、コロナ感染状況により開催形態が変わる可能性がありますので、ホームページでご確認をお願いします。

参加費は無料

ラウンドテーブル

1. 性暴力からの回復の道をさぐる

ー ジェンダー・セクシュアリティと障害の交差する地点から

世話人： 杉田真衣（東京都立大学）

レポーター： 永野佑子（性教協障害児・者サークル）

季刊『SEXUALITY』102号（7月発刊）掲載の「知的障害者への強制わいせつ事件～その回復の道をさぐる～」という論考を中心にした報告である。

なかなか解決の道が見えない、ある成人施設での知的障害者への性虐待事件の問題と併せて、報告者が長い性教育人生の中で出会った様々な障害児の虐待の生い立ち、性被害、性化行動の様子などを報告する。中学校に入学するまでの12年間でさえ生き辛いものである事実の一端と、包括的性教育のある学級生活の中で子どもたちが自己肯定感を持ち、自ら人格を作り直していく姿を伝える。

2. 高校統廃合を考える

世話人： 山本由美（和光大学）

全国で高校再編計画が新たに公表され、高校統廃合が問題になっている。産業構造の転換に対応した「人材」養成、人件費などのコスト削減に加え、政府が求める公共施設再編のような経済政策がその背景にある。地域の高校がなくなり、子どもたちは学習する権利を侵害されている。各地の高校統廃合計画の全貌と保護者、市民、生徒との共同による対抗軸の可能性について考えていく。

問題提起 全国で進む高校統廃合（山本由美）

報告① 山口県の大規模高校統廃合 山口県高教組

② 京都府北部の高校統廃合 京都高教組

③ 長野県 依頼中

分科会の概要

- 第1分科会 コロナ禍と子ども・若者
- 第2分科会 中教審「令和の日本型学校教育」の検討
- 第3分科会 GIGAスクールと公教育の近未来
- 第4分科会 学校、地域を私たちの手に
- 第5分科会 教師の働き方のゆくえ
- 第6分科会 ダイバーシティを問う

分科会	世話人	趣旨と討論の柱	レポート
第1分科会	コロナ禍と子ども・若者 馬場久志 (埼玉大学) 朝岡幸彦 (東京農工大学) 松田洋介 (大東文化大学) コメンテーター 福井庸子 (大東文化大学)	<p>「コロナ禍で子ども・若者の公共空間をつくる」 経済的貧困にとどまらず、権利と自由と生活の剥奪としての貧困が、子ども・若者をも巻き込んでいる。新自由主義のもたらす自己責任論によって、人が置き去りにされている。そのことがコロナ禍で顕在化した。医療・福祉・教育などの誰にも保障されているはずの領域の実態に直面して、人々が公共・社会の支えについて考えることとなった。</p> <p>そうした状況下で、子ども・若者の居場所とつながりに関わる活動に学び、その意味を、学習・生活・労働の3つの視点から、そして子ども・若者の目線から考えたい。</p>	① 問題提起 (馬場久志/埼玉大学) ② 報告1「地域で支える子どもの総合支援を目指して」(間瀬田結実/彩の国子ども・若者支援ネットワーク学習支援員) ③ 報告2「コロナ禍下で非正規労働者の連帯をつくる：首都圏青年ユニオンの取り組みから」(栗原耕平/首都圏青年ユニオン事務局次長) ④ 報告3「コロナ禍での図書館の実践から見える公共空間のあり方」(中沢孝之/白河市立図書館、図書館問題研究会委員長)
第2分科会	中教審「令和の日本型学校教育」の検討 金馬国晴 (横浜国立大学) 中村清二 (大東文化大学)	<p>中央教育審議会が2021年1月に公表した「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」の目玉の一つは、AI(人工知能)やICT(情報通信技術)の発展の下での遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びのありかたで、「個別最適な学び」がキーワードとされ、「協働的な学び」と往還関係にあるとされている。</p> <p>本分科会では、日本の教育のありとあらゆる側面に言及したこの答申の背景、ICTを活用すべきとする「学び」像の批判、子ども・教師の声などの現場の実態と課題についての問題提起などから、本答申を深く検討していきたい。</p>	① 問題提起 (中村清二/大東文化大学) ② 報告1「令和の日本型学校」をめぐる政策構造と今後の動向 (仲田康一/大東文化大学) ③ 報告2「個別最適な学び」の虚像と実像 (子安潤/中部大学、元愛知教育大学) ④ 報告3「ICT端末による子どもと教師の生活・学習の変化」(石井崇史/東京都公立小学校)
第3分科会	GIGAスクールと公教育の近未来 児美川孝一郎 (法政大学) 中嶋哲彦 (愛知工業大学)	<p>GIGAスクールの実施が学校現場を混乱させている。本分科会では、いま日本の学校に何が起きているのかを、①現場レベルでの実態の把握、②政策としてのGIGAスクール構想の背景や問題点の解明、③公教育のあり方の改変を論じる近年の教育「改革」のねらいの検討、を通じて明らかにする。3本の報告を受けたうえで、教育におけるICT活用の可能性も排除せず、運動における対抗軸をどう構想するのも含め、全体討論を行う。</p>	① 問題提起 (児美川孝一郎/法政大学) ② 報告1「Society5.0、デジタル改革と公教育の行方(仮)」(中嶋哲彦/愛知工業大学) ③ 報告2 GIGAスクールの分析 (交渉中) ④ 報告3 学校現場から (東京都公立小学校)

第4分科会	学校、地域を私たちの手に 山本由美 (和光大学) 石山雄貴 (鳥取大学)	トップダウンで進められる学校や地域の新自由主義的な再編に対して、私たちは、どのように学校づくりを進め、コミュニティをつくっていくのか、あるいはそれを私たちの手に取り戻していくのか。本分科会では子どもたちの十全な成長・発達を保障する学校・地域のあり方を、学校統廃合に反対する親や地域の共同、小規模校の価値の再確認、オルタナティブな学びの保証による地域づくり、コロナ禍で強行される改革への抵抗などのさまざまな可能性から問う。	① 問題提起 (山本由美/和光大学) ② 報告1 「さいたま市の「パフォーマンス型」教育改革はいまー巨大一貫校計画、突然のコロナ禍でのリモート授業などー」(さいたま市教組) ③ 報告2 「高知県四万十市の小規模校を守る共同」(小学校・中学校保護者) ④ 報告3 「地域に根ざす高校」(今井典夫・山本彰一/兵庫県立村岡高校)
第5分科会	教師の働き方のゆくえ 勝野正章 (東京大学) 高橋哲 (埼玉大学)	2019年12月に改正された給特法を中心に、文科省主導による「学校における働き方」改革が実施されてきた。しかしながら、抜本的な財源措置もないなか、同法には多くの欠陥が指摘されている。本分科会では司法を通じた教育政策の是正をめざす試みとして、さいたま地裁にて争われてきた埼玉教員超勤訴訟をテーマとする。2021年10月1日にさいたま地裁にてくださった判決を分析するとともに、同訴訟が教員の働き方改革にもたらすインパクトについて、裁判関係者と組合関係者の交流をもとに検討することをねらいとしている。	① 報告1 「裁判と学校における『働き方改革』割」: 田中まさお (埼玉教員超勤訴訟原告) ② 報告2 「埼玉教員超勤訴訟の法的争点と課題」: 若生直樹 (原告代理人弁護士) ③ 報告3 「埼玉教員超勤訴訟を如何に受け止めたか」: 糞谷陽子 (全教) ④ 報告4 「埼玉教員超勤訴訟を地域組合は如何に受け止めるか」: 石垣雅也 (全教近江八幡市教組)
第6分科会	ダイバーシティを問う 荒井文昭 (東京都立大学) 秦範子 (都留文科大学) 杉田真衣 (東京都立大学)	近年、「ダイバーシティ(多様性)」や「ダイバーシティ&インクルージョン」が謳われるようになってきている。2015年の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)においても、ダイバーシティは17の目標には入っていないものの、「誰ひとり取り残さない」ことを理念とするSDGsの中心的な概念だとみなされている。その影響は「令和の日本型教育」など教育政策にもうかがえ、何のための、誰にとってのダイバーシティなのかを注意深く検討する必要がある。本分科会では政財界の動向も見据えつつ、「ダイバーシティ(多様性)」が女性政策や障害児教育においてどのように機能しているかなどを検討する。	① 問題提起 (杉田真衣/東京都立大学) ② 報告1 「日本における多様性政策と多様性教育の危うさ」(池谷壽夫/了徳寺大学) ③ 報告2 「中教審答申の示す「新時代の特別支援教育」とは」(佐竹葉子/埼玉県特別支援学校) ④ 報告3 コロナ禍が暴くジェンダー構造と女性差別 (藁輪明子/名城大学)



第30回全国教育研究交流集会申し込み方法

ホームページトップの「申し込みフォーム」または「<https://forms.gle/aXeizDzkhnMoqt3d6>」をクリックし、必要事項を記入し「送信ボタン」を押していただければ申し込み完了です。申し込みは12月10日(金)厳守です。世話人・報告者の方も申し込みを必ず行って下さい。

参加申し込みされた方にはいただいたメールアドレスに、全体会・設立記念のつどいと6つの分科会、ラウンドテーブルのURLと資料を12月23日までにお送りします。

12月25日(日)は、9時50分からラウンドテーブルに、12時50分頃から全体会にお入りください。12月26日は、9時50分からの指定されたURLで分科会にお入り下さい。複数の分科会に参加することができます。

全体会・分科会終了後に全体会・分科会の感想を sanka@min-ken.org にお寄せ下さい。